

戦時下の炭鉱風景（海軍炭鉱と三菱勝田炭鉱）

海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群（11）

四年前の四月と五月、本連載で「海軍燃料廠採炭部」の絵葉書六枚（昭和四年（一九二九）頃）を紹介しました。今回取りあげるのは戦時中と思われる絵葉書三枚です。軍事施設のため、「呉鎮守府検閲済」と断っています。

絵葉書1は採炭部（海軍炭鉱）の本部庁舎。昭和四年の絵葉書とたまたま同じ角度になっていますが、左側に付属する建物は以前のものより増築されていることがわかります。志免町シーメイトと道路を新設する際に発掘調査が行われましたが、高級将校が勤務しただけあって、半地下で外光を取り入れた水洗トイレがあったのには驚きました。

絵葉書2は坑内の作業風景です。右が機械による掘削（地下坑道の最先端で切羽と呼ばれる）、左は掘り出した石炭をレールの上の炭車で運搬しているところです（どうやら複線らしい）。どちらも太い杭で天井を支えながらの作業です。天井が崩落する落盤の恐れが常にありました。

絵葉書3は坑外の「選炭場」です。簡単な作りの工場で、女性達がベルト・コンベヤーの上を流れてくる石炭塊からポタ（燃えないのでポタ山に廃棄される）を選び分けています。この説明に「国防陣」という言葉があるのが戦時下であることを思わせます。エネルギー源である石炭は一刻も早く国防のために供給することが求められていました。

これに関連して『写真週報』第二一六号（昭和十七年四月十五日、情報局編輯）から一枚の写真を紹介します。【出典はアジア歴史資料センター A06031081100】

昭和十六年十月から十九年七月まで内閣総理大臣の地位にあった東條英機陸軍大将が、宇美町にあった三菱勝田炭鉱を訪れた際の写真です。昭和十七年三月三十日、東條首相みずから地下一二〇尺（約三六〇メートル）まで降り、採掘現場の坑夫を激励したということです。黒光りする石炭はダイヤに匹敵する貴重な価値

を持つというので、ここでは「黒ダイヤ」と表現されています。「採炭報国（＝石炭を掘って国に貢献する）」というスローガンが叫ばれていた時代です。

この写真は東條首相が地下に降下するエレベーターのカゴに乗り、まさに動き出そうとする直前のようです。柵が閉じられ、ヘッドランプを着けた首相（中央）が右手で機械を操作しようとしています。

【写真説明】

絵葉書1…採炭部

ノ中枢 庁舎

絵葉書2…

右・地底ノ宝庫

ヲ拓ク 坑内石

炭採掘場

左・神秘ヲ秘メ

ル地下ノ宝庫

坑内作業場

絵葉書3…将二国

防陣ニ輸送セン

トスル選炭工場

内

写真1…「地下千

二百尺の東條総

理」

東條内閣総理大臣

は、三月二十九日か

ら五日間、九州に西

下し、各地の民情お

よび重要産業施設を

視察したが、三月三

十日、福岡県下宇美

町の三菱勝田炭鉱で

は、地下千二百尺の

坑底にもぐり、「しっ

かり頼むよ」と親し

く黒ダイヤや戦士の肩

を叩いて激励した。



絵葉書2



絵葉書1



絵葉書3



写真1